

公益社団法人 上伊那教育会
総研修会 「仰望の日」

期日：令和7年5月21日（水） 会場：長野県伊那文化会館

【 開会・全員合唱 上伊那教育会の歌「 仰 望 」 】



【 松崎 善幸 上伊那教育会長 挨拶 】

上伊那教育会の歌「仰望」の余韻がまだ残っている、そんな感じがします。すばらしい全員合唱をありがとうございました。歌は良いですね。この後の合唱団の発表も楽しみです。

改めまして、ご来場の皆様、おはようございます。公益社団法人 上伊那教育会 総研修会「仰望の日」にご参集していただき誠にありがとうございます。また、本日ご臨席いただいている、信濃教育会様はじめ、ご来賓の皆様には日頃より上伊那教育会並びに学校教育に対して、ご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

五月も半ばを過ぎました。今朝も私の家の周りではカッコウがしきりに鳴いていましたが、皆様の家の周りはいかがでしょう。東西にアルプスの山々の残雪を見ながら、田には水が張られ、植えられた苗が風になびく・・・この伊那谷の美しい景色とそこにある人々の営み、先生方はどんなことを感じられるでしょうか。私の好きな言葉に、「山美しく 水美しく 人更に美しく」という言葉があります。山美しくとは景色や景観もありますが、我々の暮らす故郷そのものを言っています。水美しくは、流れる水のこともありますが、その地で得られる自然の恵みや食べ物、それらが安心・安全であることだと思います。そして、人更に美しくです。その地で暮らす人々の心が通い合い・繋がりがあって、安心して生活できることの喜びや有難さが、我々にとって大切なのだと思います。

さて、私たちの日々接している児童生徒は、先生方は、学校は、美しい姿や心で、安心・安全に毎日を過ごしていらっしゃるでしょうか。学校では不登校が増え、教職員の働き方改革も、道半ば・・・とまでも言えないかもしれません。私たちは、日々目の前の子どもたちと向き合い、精一杯職責を果たそうと努力はしていますが、課題が山積しているのが現状だと思います。故に、私たちは教育を専門として歩んできた職能団体である「教育会」に集い、仲間と共に協力して、お互いに心を通わせ、響き合わせて、

少しでも向上できるように努力しているのです。

今年度の教育会テーマを、三つの教育「共育・協育・響育」～共に協力し響き合って育つ～としました。我々教職員が、子どもたちの教育環境そのものであるという自覚。そのために我々は絶えず人間性や専門性を高める必要があるという、自らの課題意識を持つことが大切です。上伊那教育会がその役割の一端を担えればと願っています。



多くの報道で話題になっていますが、令和7年は、終戦から80年という節目の年であります。直接戦争を体験された方の多くは鬼籍に入られ、直接お話を聞く機会は失われつつあります。上伊那教育会では、「満蒙開拓青少年義勇軍」の送出しに当たり、学校や教職員が先導し、多くの子どもたちを戦地に送ってしまったという歴史があります。戦時下の国策として起きたことではありますが、このことを忘れることはできませんし、忘れてはならないことであると思

います。今日は、会員発表で、美篤小学校の田村栄作先生が、ご自身で研究されてきた「満蒙開拓青少年義勇軍と少年の塔」について発表をされます。ぜひ皆様、ご聴講をお願いします。そして、本日の講演についても、「戦争と命・平和」をテーマにさせていただきました。この場で講師の渡部陽一さんをご紹介します。戦場のカメラマン・フォトジャーナリストとしても有名な方で、ご存じの方も多いと思います。1972年のお生まれで、静岡県立富士高校を卒業し、明治大学法学部に進まれます。大学時代に生物学の授業でアフリカの狩猟民族に興味を持ち、旅行者としてコンゴ民主共和国を訪れましたが、当時は紛争の真っ只中であつたため、少年兵に襲撃され、カメラを含めた私物を全て差し出すことで、どうにか助かったとのこと。帰国後、その被害と少年兵がいるという現実を周囲に説明したが、全く理解してもらえなかったことから、状況を伝えるためのカメラの必要性を痛感し「戦場カメラマン」となることを決意されたそうです。その後、ルワンダ紛争・コンゴ紛争・チェチェン紛争・ソマリア内戦・イラク戦争など、多くの国々と紛争地域を訪れておられ、現在でも従軍記者として、紛争地域に赴いており、雑誌・TV番組・SNSなどで作品を配信しておられます。今日は、『戦場からのメッセージをあなたに ～ファインダー越しに見た命の現場～』と題してご講演いただきます。皆様、ご聴講をお願いします。

最後になりますが、午後は、私たちの専門性を磨く、教科等教育研究会の研修が計画されています。午前の部と併せて、会員の皆様にとって有意義な一日となることを願っております。本日のこの研修を支えてくださっている各校代議員はじめ関係役員の皆様、そして全ての会員やご参集の皆様にご感謝し、挨拶いたします。本日はよろしく申し上げます。

【 原 文 章 信濃教育会 事務局次長 来賓祝辞 】

おはようございます。只今御紹介をいただきました信濃教育会の原でございます。本来ならば大日方貞一会長が参ってご挨拶をするところですが、所用により出席できませんので、代わりまして一言お祝いのご挨拶を申し上げます。本日は上伊那教育会の総研修会開催、誠におめでとうございます。また、日頃より信濃教育会の諸事業にご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

信濃教育会は、本年度、創設139年を迎えます。その歩みを振り返ると、幾多の先達が残してくれ

た伝統を尊重しつつも、常に新たな時代を見据え、教育の神髄を求めてきた信州教育の歴史が見えてまいります。その原動力になったのは、目の前の子どもたちの「健やかな成長」を願い、教師として人として自ら磨き高めたいとする教師の自主的・自律的な営みに他なりません。

昨年12月に発刊した『秘伝「信州教育の極意」』には、それぞれの先人が理想とする教育の具現に取り組んだ功績が、その先人の遺した言葉と共にまとめられています。上伊那教育会からは、矢島麟太郎先生、加藤明治先生、唐澤正國先生の3名の先生方が掲載されています。私たちは、長い信州教育の流れの中に身を置いています。数多くの先人と繋がっていることを誇りとする一方で、伝統だけに留まることなく、常に新しいものを求め、創造していく気概をもって取り組んでまいりたいと心を新たにしているところでございます。

社会の急激な変化に伴い、生活のスタイルだけでなく、教育の在り方も大きく変わろうとしています。それに伴い様々な課題が次から次へと押し寄せて来ています。その課題解決において、一人一人の個の対応には限界があります。仲間と知恵を出し合い、新たな方策に挑戦していくことによってこそ、最適解に近づけるのではないかと考えます。教育会に入ると、志を同じくする仲間とともに真理を求めて学ぶことができます。人とつながり、憧れに出会えます。郡市教育会で学び、信濃教育会で、南北約200キロ、東西100キロの広大な地域の中で日々子どもたちと向き合っている県内の先生方とつながりがもてることは、課題に向き合う上での勇気と自信につながります。ぜひ信濃教育会や上伊那教育会の様々な研修や講座で学び、教師としてのお力を付けていただくことを願っております。

最後になりますが、上伊那教育会の益々のご発展と、皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。



【 会員発表『満蒙開拓青少年義勇軍と少年の塔』 】



郷土研究部

美篤小学校

田村 栄作 先生



参会者の感想

- 上伊那に赴任しているにもかかわらず、知らないことが多く、今回の発表をお聞きし、自分でも調べなくてはならないと感じました。
- 少年の塔、満蒙開拓団等、何となく知っていたことを田村先生の実践に基づいて発表をしてくださり大変勉強になりました。
- 分かりやすく事実を述べられている構成で、意図が伝わってきて考えさせられました。さらに踏み込んだ満蒙開拓団の様子や、少年の塔ができるまでのいきさつを知りたいと思いました。

【会員合唱】

☆上伊那教育会合唱団による合唱

『時代』『合唱』

☆全員合唱『信濃の国』



参会者の感想

- 短い練習時間で毎年すばらしい歌声を聞かせていただきありがとうございます。
- 30～40人の先生方の歌声、生き生きと歌っている姿からエネルギーをもらいました。
- なじみの曲を素晴らしい合唱で聞かせていただき、とても気持ちよかったです。

戦場カメラマン/フォトジャーナリスト

渡部 陽一 さん

【講演】

「戦場からのメッセージをあなたに
～ファインダー越しに見た命の現場～」



参会者の感想

- 戦地の子供たちが生きた証、存在した証を残すとともに、戦地で起こっていることの真実を伝えるという仕事のやりがい、そして渡部さんの働く感を学び、戦争について今年は特に考えなくてはならないと感じました。
- 今回リアルな写真を見せいただきながら、分かりやすくお話していただきありがとうございました。また、危険な戦場に自ら赴き、世界の人に伝えてくださろうとするお気持ちに感銘を受けました。私たちも人ごとでなく、世界で起こっていることをキャッチする感性を磨いていきたいです。

【佐々木英明 上伊那教育会副会長 お礼の言葉・閉会の挨拶】

渡部陽一さん、本日は私たち上伊那教育会会員及び地域の皆様のために、心揺さぶられるご講演をありがとうございました。

冒頭の映像、ルワンア、パキスタン、イラク、パレスチナなど世界各地の戦場となっている地域で撮影されたたくさんの写真と、私たちになじみのある渡部さんの語り口から伝えられる言葉から、普段拝見するテレビ番組では伝えきれない渡部さんの思いを受け取ることができました。戦場の最前線での体験、そしてその中で出会った子どもたちや家族などの表情や言葉には、私たちの想像をはるかに超える重みがありました。一枚一枚の写真に込められた命の尊さ、平和のありがたさが、私たちの胸に強く迫ってまいりました。まさに、現地で実際に見て、感じ、そして言葉にされたからこそ伝わる、重く深い真実だと感じました。そして、平和な日常の中では見過ごしてしまいがちな「当たり前の幸せ」が、いかに貴重で守るべきものであるかを、改めて気づかせていただきました。また、パレスチナ問題についてもとても分かりやすく教えていただきました。世界の出来事に目を向けること、自分にできることを考えることの大切さを、強く感じることができました。マララさんのことばにある「戦争を止める初め

の一步は教育の力にある」、私たちは、未来を担う子どもたちに平和の意味と命の大切さを伝えていなくてはならないと思いました。本日のご講演は、そのような私たち一人ひとりが平和や幸せについて見つめ直す、貴重な時間となりました。

最後に、お体に留意され、これからも戦場での取材に基づくたくさんの情報と私たちへのメッセージを私たちに伝えていただき、ますますご活躍いただきますことを祈念し、簡単ではございますが、御礼の挨拶とさせていただきます。それでは、ここで、本日、こうして渡部陽一さんと出逢えたことの喜び、私たちの総研修会『仰望の日』を輝かせていただきましたことへの、感謝の気持ちを込めて花束を贈呈させていただきます。

全員合唱「仰望」で幕を開けた、総研修会『仰望の日』の閉会に際しまして、本会に関わってくださった皆様に感謝をお伝えし、閉会の挨拶に替えさせていただきます。

まず、会員発表で、二度と繰り返してはならないと誓ってきた、満蒙開拓青少年義勇軍と少年の塔について、歴史的背景を含めて、わかりやすく伝えてくださった、郷土研究部の田村栄作先生。続いて、忙しい仕事の合間に練習を積み重ね、「時代」「合唱」の2曲の発表を通して、歌うことの素晴らしさや、美しく迫力ある混声の響きを伝えてくださった、上伊那教育会合唱団の皆さん。そして、日常の中で続いている戦争の様子から、平和や幸せについて考える視点を教えていただいた渡部陽一さん。ご多用のなかご参集くださり、ご光彩を添えてくださいました、ご来賓の皆様方、地域の皆様方。そして、本会の運営を支えてくださった、教育会 代議員、幹事、常任委員、事務局の皆様、ご参集いただきました全ての皆様に、心より御礼申し上げます。

今年の上伊那教育会テーマは「共育・協育・響育～共に協力し、響き合って育つ～」です。「はじめに子どもありき」、子ども達一人一人にとって、よりよい教育の実現のために、教育会の様々な研修に参加することで、語りあい、思いを共有しながら、共に高め合っていきましょう。

このあと、午後には教科等教育研究会による、専門性を深める研修会があります。明日の子どもたちのために、積極的に研修を深めていただければと思います。有意義な研修となりますようご期待申し上げます。最後に、ご参集いただきましたすべての皆様方のますますのご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げ、公益社団法人、上伊那教育会総研修会「仰望の日」午前の部を閉じます。ありがとうございました。



先日は、総研修会「仰望の日」へご参加いただき、誠にありがとうございました。今年度は終戦80年という節目から、テーマを「戦争と命、平和」として、会員発表や講演を進めていただきました。会員発表では、上伊那教育会が大切にしてきた「満蒙開拓青少年義勇軍と少年の塔」について、多くの先生方に知っていただけたことを嬉しく思っています。詳しく学びたい方は、7月12日(土)に平和講座(上伊那教育会郷土研究講習会)を駒ヶ根市赤穂公民館<共催>で実施します。ぜひご参加ください。また、9月20日(土)には「少年の塔慰霊祭」を伊那公園にある少年の塔で実施します。多くの先生方に足を運んでいただき、満州において亡くなった子どもたちに思いを寄せ、一緒に手を合わせていただければと願っています。(会長：松崎善幸)